

# Port of Hachinohe

No. **33**  
Mar2011

---Maritime & Trade Report---

●今号の主な記事

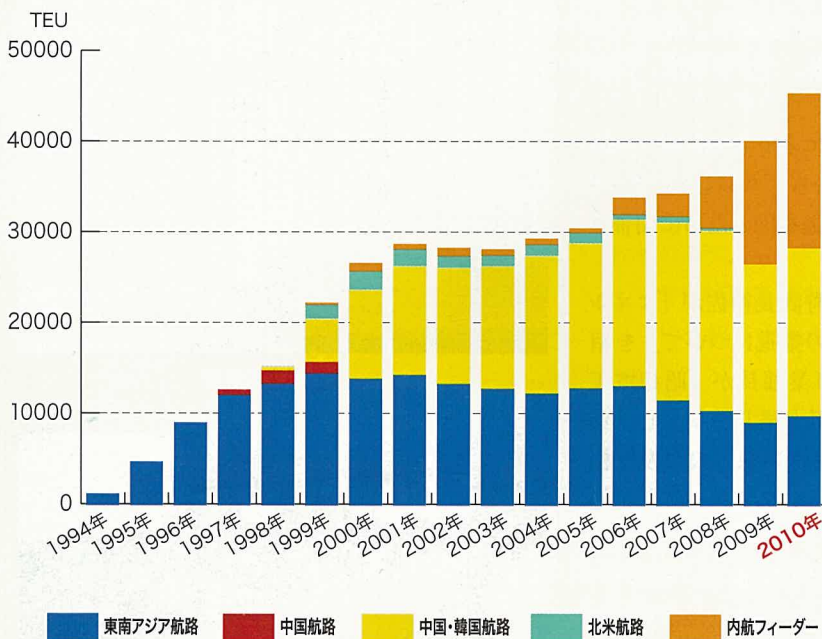
- 2010年八戸港コンテナ貨物取扱量～45,000TEU突破～
- 東南アジア定期航路改編
- 「LNG利用促進セミナーin八戸」開催
- 台湾ビジネスマッチング～2011 日本青森縣物産嘉年華～
- 八戸市海外経済協力員レポート
- 八戸港の物流を支える人々

## 2010年八戸港コンテナ貨物取扱量～45,000TEU突破～

2010年の八戸港のコンテナ貨物取扱量（空コンテナ含む）は対前年比で約13%増加し45,430TEU、実入りコンテナも対前年比で約24%増の28,217TEUと、ともに過去最高を記録しました。

中でも、内航フィーダー航路が前年に引き続き好調で、対前年比約26%増の17,135TEU（空コン含）を記録しています。また、東南アジア航路、中国・韓国航路も、それぞれ約8%増の9,742TEU、約6%増の18,553TEUと堅調に取扱量を増やしています。

航路別コンテナ取扱実績(空コンテナ含む)

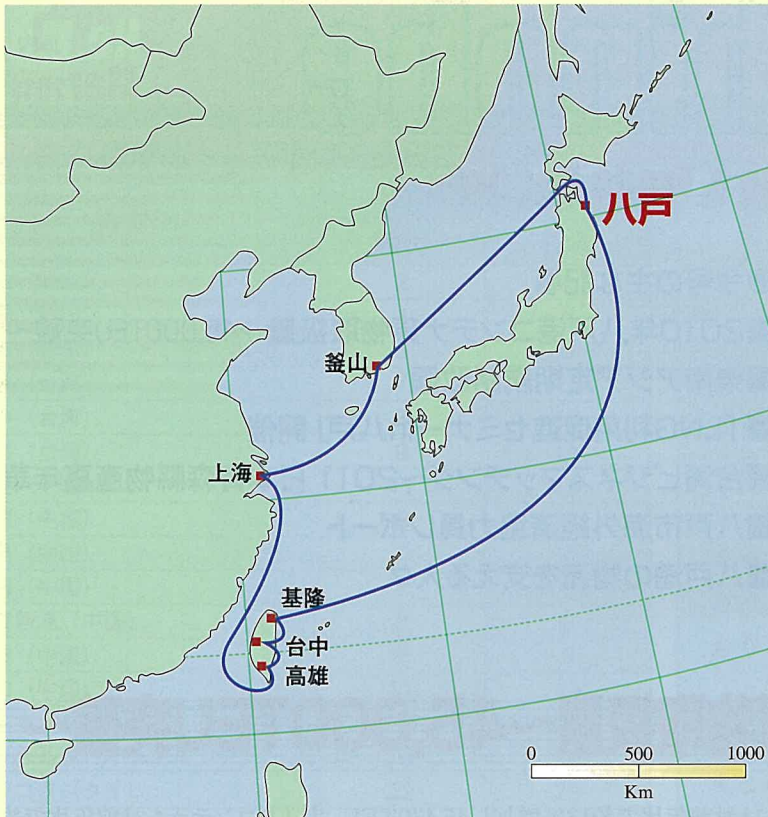


航路	空コン含 (前年数)	実入 (前年数)
東南アジア	9,742 (9,025)	7,684 (6,844)
中国・韓国	18,553 (17,484)	13,829 (12,793)
北米	0 (0)	0 (0)
内航フィーダー	17,135 (13,652)	6,704 (5,333)
総計	<b>45,430</b> (40,161)	<b>28,217</b> (24,970)

※速報値



# 東南アジア定期航路改編



八戸港の東南アジア航路を運航する PIL (Pacific International Lines) 社は、3月から航路を一部変更し、寄港地に釜山 (韓国) を加えました。

従来は、台湾から上海へ寄港後、八戸へ向かっていましたが、航路改編後は上海の後、釜山に寄港してから八戸へ向かいます。八戸港への寄港は土曜日から火曜日に変更になりました。

釜山は世界のコンテナ取扱量の上位を占める有数のハブポートであり、八戸港は、南星海運の運航する中国・韓国航路でも釜山と結ばれています。東南アジア航路が寄港することで、荷主の皆様の実便が増え、利便性の向上につながるものと考えていますので、是非ご利用下さい。

東南アジア航路 寄港地	
火曜日便	上海～釜山～新潟～苫小牧～八戸 ～仙台～基隆～台中～高雄

お問い合わせ先  
 PIL 代理店 八戸通運(株)海運営業所  
 〒039-1161 八戸市河原木字海岸 36-11  
 TEL:0178-29-0202 FAX:0178-20-3281

# 「LNG利用促進セミナーin八戸」開催

1月20日、八戸プラザホテルアーバンホールにおいて、「LNG利用促進セミナー in 八戸」(主催：青森県、八戸市、八戸商工会議所、後援：東北経済産業局)が開催され、東日本のものづくり企業、ガス事業者、港湾関係者、自治体等から419名が参加しました。

今回のセミナーは、平成27年4月にJX日鉱日石エネルギー(株)が、八戸港ポートアイランドに東北で最大のLNG輸入基地となる「八戸LNGターミナル」を立地することを契機として、LNGの利用促進を図るために開催されたものです。

基調講演として、経済産業省ガス市場整備課の猪狩課長補佐が「エネルギー基本計画を実現するための天然ガスの高度利用の推進について」を紹介し、第一講演として、昭和電工(株)の福山化学品事業部長が「昭和電工における低炭素社会に向けた取り組みとLNGの活用方法」を紹介し、第二講演では、JX日鉱日石エネルギー(株)の三宅取締役常務執行役員及び松田天然ガスプロジェクトマネージャーが、「JXが構築する八戸・北東北地域でのLNG供給体制について」を紹介しました。

参加者は、世界のLNG・天然ガスを取り巻く状況や国の施策、利用サイドにおけるエネルギー転換の実例及び八戸LNGターミナルの立地計画についての知見を深めました。今後、北東北三県において、LNG利用の輪が広がることが期待されております。



八戸市長挨拶



会場の様子



## 平成22年度中小企業海外展開支援事業 「八戸いか・さば」インチャイナ・プロジェクト報告会開催

(株)八戸港貿易センターでは、八戸地域の主要な産品である水産加工品の海外販路開拓を図り、地域経済の活性化につなげるため、平成22年度中小企業海外展開支援事業として、経済成長著しい中国市場の現状を把握し、課題を確認するための調査を実施致しました。

3月3日、八戸プラザホテルにて調査結果とそれを踏まえた今後の取組みの方向性についての報告会を開催致しました。

報告会では、主催者として(株)八戸港貿易センター専務取締役 中嶋幸一郎よりご挨拶の後、来賓として小林眞八戸市長よりご挨拶をいただきました。

その後、調査を受託した株式会社インサイト 代表取締役 森山種生氏より「既に中国市場に流通している水産加工品もあるが、引合の大部分は原料である。しかし、魚食の拡大傾向や富裕層の多さなどから、ブランド浸透を進めることで水産加工品の販路拡大につながる可能性がある。また、昨年からはOOCLが京浜港などでのリーファーコンテナでの小口混載サービスを始めるなど、冷凍食品輸出のネックである輸送方法の課題も、解決の方向に向かいつつある」と報告されました。

報告会の後半には現地事情、特に中国国内の物流事情に精通している上海三統国際貨運代理有限公司総経理 陳泰主氏から「中国輸送ネットワーク構築の挑戦～日本のローカルポートと中国内陸を結べ～」と題してご講演をいただきました。

今回の報告会が、海外展開を考えている企業の皆様の参考となれば幸いです。



小林八戸市長来賓挨拶



森山氏の報告

## 京浜港セミナーが開催される

1月31日(月)、帝国ホテル(東京都千代田区)において、「京浜港セミナー」(主催:東京都港湾局、川崎市港湾局、横浜市港湾局、東京港埠頭株式会社、財団法人横浜港埠頭公社、社団法人東京都港湾振興協会、社団法人川崎港振興協会、社団法人横浜港振興協会)(後援:青森県、八戸市、八戸港国際物流拠点化協議会、八戸商工会議所、八戸港振興協会、宮城県、仙台市、仙台商工会議所、仙台国際貿易港整備利用促進協議会)が開催され、荷主、船会社、物流事業者等約700人が参加しました。

青森県では、京浜港と平成21年6月に「内貿振興に向けた八戸港と京浜三港(東京港、川崎港、横浜港)の連携に関する協定」を締結しており、同協定書中の内貿振興事業を推進する取組みの一つとして、昨年に続き同セミナーに参加しています。

第1部では、主催者側の川崎市港湾局長より「国際コンテナ戦略港湾としてさらなる飛躍を目指す京浜港」と題してプレゼンテーションが行われました。

このプレゼンテーションにおいて、京浜港では、東日本のハブポート、東アジアの国際ハブポートになることをターゲットとして、国内背後圏を拡大して集荷力を高めるため、補助制度の実施を予定しているという紹介がありました。

また、今年1月に八戸港と同様、京浜港と協定を締結した宮城県からは、相次ぐ大型企業の立地に対応するため、コンテナヤードの拡張計画や物流特区の実現に取り組んでいる仙台塩釜港の紹介がありました。

県と八戸市は、同セミナー会場において青森県の紹介ブースを設置し、パネルにより八戸港、八戸市を紹介したほか、八戸港の紹介資料、青森県産業立地ガイド、青森県観光ガイドなどのパンフレットを配布し、八戸港、青森県のPRに努めました。

第2部では川崎市長のあいさつ、来賓あいさつに続き、意見交換会が行われ、セミナーは盛況裏に終わりました。



セミナーの様子



青森県ブースにて八戸港をPR

### お問い合わせ先

青森県県土整備部港湾空港課

[http://www.pref.aomori.lg.jp/kotsu/build/kowan\\_top.html](http://www.pref.aomori.lg.jp/kotsu/build/kowan_top.html)

TEL:017-734-9676 FAX:017-734-8194



# 青森県県南・下北地域食品関連産業海外販路開拓支援事業 台湾ビジネスマッチング ～2011 日本青森県物産嘉年華～



中嶋専務挨拶

(株)八戸港貿易センターは、経済産業省の補助事業を活用し、青森県県南・下北地域食品関連産業海外販路開拓支援事業として、台湾におけるビジネスマッチングを企画、開催致しました。

近年、「食の安全・安心」の意識の高まりとともに、日本食へのニーズが高まっている海外の市場の中で、中華圏は、経済成長著しく、富裕層の人口も多いため、有望な消費市場として捉えられています。中華圏の中でも、台湾市場は政治・経済ともに安定しており、青森県のりんごはこれまでの販路開拓への取組により、贈答品として定着する等、青森県産品の中で最も知名度の高いものと考えられます。

本事業では、りんご以外の地元加工品等の販路開拓支援を目的に、台湾で商談会

を実施致しました。

参加いただく企業は、昨年11月に青森県県南・下北地域産業活性化協議会を通じて募集し、水産加工業を中心に、農産加工品、製麺、製菓等14社のご参加をいただきました。支援体制として、地元商社である(株)ファーストインターナショナルを専門家として依頼し、青森県・八戸市・八戸港国際物流拠点化推進協議会からご共催を、財団法人交流協会・台湾貿易センターからはご後援をいただきました。

商談会は2月21日と22日に台北市、2月23日と24日は高雄市の、二会場で開催しました。21日の初日は現地マスコミを含めたバイヤー等関係者向け試食会を開催し、主催者を代表して(株)八戸港貿易センター専務取締役の中嶋幸一郎から「青森県の優れた産品を台湾の皆様にご自信を持ってお届けします。」と挨拶の後、参加各社の製品をスクリーンで紹介、各社のブースで試食を行いました。

試食会の後、台湾バイヤーは、各ブースを回る等、興味がある商品についてはテーブルについて具体的な商談が進められました。

台北・高雄とも正味1日半の商談日程でしたが、100名を越える方にご来場いただき、参加した各企業の商品を十分にアピールできたものと考えています。今回の事業を足がかりとして、地元企業の海外販路開拓につながることを願っています。



会場の様子(高雄)



商談の様子



試食ブース(台北)

お問い合わせ先

(株)八戸港貿易センター

TEL:0178-72-1505 FAX:0178-72-1503



## ベトナムで県産農林水産品の販売促進活動を初めて実施

青森県と輸出関係団体で組織する青森県農林水産物輸出促進協議会では、平成22年11月28日～12月2日にベトナム（ホーチミン、ハノイ）において、りんごや水産加工品等の販売促進活動を初めて実施しました。県産品に対する現地バイヤーからの評価は高く、イナダの商談が成立したほか、りんごジュースが商談継続中であるなど、県産品の輸出拡大が期待される結果となりました。

りんごについては、「ふじ」は中国産というイメージが強いことから、本県産を売り込むためには「世界一」等の大玉品種により贈答需要を狙うことが効果的であるとの印象を持ちました。

また、水産加工品については、日本から原料を輸入して加工するケースが多いことから、県産加工品の輸出に当たっては、付加価値をつけた商品の提案が大変重要になると感じました。

なお、日本産の水産物では、低価格のサケの頭、脂肪分の多いサンマやサバなどの人気がありますが、円高や日本国内の価格高騰により、交渉が難航しているケースが多いようです。

ベトナムは、経済発展が著しく、県産りんごの輸出が平成21年産から始まるなど、今後、県産農林水産品の有望な輸出先として期待されます。しかし、法律の運用やインフラの面ではまだ発展途上の部分が多いことから、県では、今後も情報収集に努めていくこととしています。



県産りんごが販売されていたベトナム市場



水産業者との商談

### お問い合わせ先

青森県農林水産部  
総合販売戦略課  
海外販路開拓グループ  
TEL:017-734-9574  
FAX:017-734-8158

## 三陸沿岸都市会議で「八戸港の整備促進と特定重要港湾の指定」を提言

1月17日(月)、八戸市から宮城県気仙沼市までの三陸沿岸7市の市長で構成する、第27回三陸沿岸都市会議が、岩手県陸前高田市で開催されました。

今回の会議で、八戸市からは3件の提言事項があり、「高規格幹線道路 八戸久慈自動車道の建設促進」、「八戸港の整備促進と特定重要港湾の指定」、「種差海岸の国立公園編入の早期実現」について提言されています。

3つの国際コンテナ定期航路と3つの内航フィーダー航路が就航している八戸港は、昨年のコンテナ貨物取扱量が過去最多の4万5千TEUを突破し、また、内貿振興に向けた京浜三港との連携協定を平成21年6月に締結しており、今後、国内及び国際コンテナ貨物取扱量の増加が期待されています。また、平成27年4月にはLNG輸入基地の運転開始が予定されており、北東北・北海道地方におけるエネルギー供給拠点としての機能が新たに加わることが期待されています。さらには、北東北の穀物供給拠点である飼料コンビナートでは、サイロ増設等の機能強化が図られています。

このように国際物流の重要な拠点である八戸港の整備促進と特定重要港湾の指定に取り組んでいるところであり、三陸沿岸地域の発展に向け、各都市と連携を強化しながら港湾の整備と利用促進を図ることを提言しました。

久慈市、宮古市、大船渡市においても、自地域の港湾の整備促進を提言しており、同会議は、港湾の整備促進を、国・県・関係機関への要望事項の一つとして決議し、今後、要望活動を展開していく方針です。



会議の様子

### ※三陸沿岸都市会議

八戸市から宮城県気仙沼市の三陸沿岸7市の市長で構成し、三陸沿岸地域全体が振興発展していくための共通課題を協議し、国・県へ要望活動を実施しています。

### 【構成市(7市)】

八戸市、  
岩手県久慈市、  
宮古市、  
釜石市、大船渡市、  
陸前高田市、  
宮城県気仙沼市



発言する八戸市長

### お問い合わせ先

八戸市建設部港湾河川課  
TEL 0178-43-9386



# 八戸市海外経済協力員レポート

八戸市は、平成23年3月現在(天津、シンガポール、タコマ)の3名に「八戸市海外経済協力員」を委託し、現地の出来事や経済状況をレポートしていただいております。また、八戸地域の企業等が協力員の在住都市を訪問する際には、協力員に現地事情の説明等をしていただけますので、ご希望の方は八戸市商工労働部産業振興課(TEL0178-43-9244)までご連絡ください。(なお、海外経済協力員の日程等の都合により、対応できない場合もありますので、予めご了承ください。)

REPORT

## タコマレポート



タコマ・ピアスカウンティ商業会議所  
(米国ワシントン州) マネージャー  
ゲーリー・ブラケットさん

「ピアース郡の経済は、大恐慌と呼ぶに値する記録的な、長期の深刻な景気低迷から脱しつつある。」ピアース郡経済インデックス 2010-11 報告書の要旨は、このような表現で始まっていますが、私はこれ以上の適切な表現は想像できません。

昨年、ワシントン(政府)は、今回の景気後退は、2009年の3/4半期で終了したと予測し、州の経済学者である Arun Raha 博士は景気動向の変換点を確認しました。

全体的に、州及びビュージェット湾岸地域、特にシアトル市は、この大恐慌を乗り切ったといえます。事実ピアース郡は、郡内の景気後退が終わり、2010年の3/4半期には景気が回復し始めるとの予測どおりになっています。

実際の景気より遅れる特徴を持つ、景気状況を示すデータも、この景気回復の予測を裏付けています。

しかしながら、この景気回復はとてとてもゆっくりとしたものです。

国の経済と同じように、州及びピアース郡の経済も、ゆっくりとはありますが何とか回復を続けています。予測では、国の経済は、2011年末までに+3%の成長、失業率は 8.5%まで回復すると言われていました。この積極的な(あるいは控えめな)予測においても潜んでいる危険性は、増大する財政赤字の問題と、中国のインフレ抑制があまりにも遅れるかもしれないという懸念です。

ちょうど国全体の景気後退が、ピアース郡の経済を悪化させたように、現在の国の経済は、地方の大都市エリアの経済を上昇させると予測されており、すでに州及び一部の地域では、ある程度雇用回復が見られます。地方経済(住宅の空き状況、住宅価格、家賃、小売業の販売状況、雇用水準)のあらゆる側面に対する最大の上昇要因は、イラクやアフガニスタンに配置されていた18,000人の帰還兵の存在です。

「ワシントン州経済開発委員会」の最新の報告では、軍隊を雇用に関して、州内で三番目に大きな雇用主であるとしており、ルイ

ス・マコード基地(以前のルイス・マコード空軍基地)を、単独の雇用主としては州内で最大であると報告しています。事実、不動産コンサルタントによると、ピアース郡内のアパート空室率は4月の7.6%から10月の5.1%に下降しており、これはまさに軍隊の帰還の時期と重なっています。また最近の平均的な住宅建設価格は450ドル上昇しているが、完成した住宅価格はわずかに下降しており、おおよそ7.3月分の住宅供給の在庫が現在も市場に残っています。

2010年を通じて、産業界では、目覚ましい利益を上げる部分がある一方、暗いニュースも届けられました。具体的には、タコマ港は、深刻な取扱コンテナ量の減少と、その他の試練から始まりました、2010年を通じて港のコンテナ産業は、合併などの決定や、2009年に海運業者によって決められた経路指定の影響を受け続けました。コンテナは、すでに落ち込んでいた2009年水準からさらに7.1%も減少しました。

タコマ港では、流通産業の急激な構造変化と、地元住民の反対を受けていたメイタウン社(これまでタコマ港により商品管理の中心となる企業として提案されていた)をうまく売却することができました。

メイタウン砂利会社への売却は、現金と砂利、そして長期的な利子収益との組み合わせと、将来の財産売却から得る利益をもたらします。この売却によって、20年間で2,300万ドルから3,000万ドル取り戻し、タコマ港の2,750万ドルの投資を回収できることが予測されています。

また、NYK社は、2012年の7月にタコマ港へ進出する方針を確認しました。2009年後半の、一連の3つの合意において、NYK社の船舶が港内のSitcum Waterway(シットカム水路)のAPMターミナルへ寄港するとの改定された計画が強調されています。



「チェンパース・ベイ」 Photo by Aidan Bradley



そしてタコマ港では、24個のコンテナ幅（18個のコンテナ幅に対応する4本のクレーンはすでに存在する）に対応する273フィートの高さの“スーパー・ポスト・パナマックス”クレーンに対応するためにワシントン・ユナイテッド・ターミナルを600フィートまで拡大しています。

タコマ港では、立体交差（リンカーン通り陸橋）建設の機会をうまく利用しています。この2,180万ドルの計画は、鉄道と道路の効率性（また、大気環境の改善）を大いに高め、長さにして平均8,000フィートの貨物列車による積荷の移動をスピーディで効率的にします。

同様に、タコマ港は最近、アメリカ商務省の新たな「代替地造成プログラム」のもと、海外貿易ゾーン（No.86）を再編成することを公表しました。この海外貿易ゾーン（No.86）は、最新のデータでは2,266エーカーありますが、利用する企業の変化するニーズに劇的に適応することができるでしょう。マツダとKia（キア：韓国の企業）がタコマ港の海外貿易ゾーンを利用する主な2社であり、その2社に対して、フレキシブルな輸送・保管方法を提供したり、関税の納付時期を遅らせる、関税の額を減らす、もしくは免税とするなどして商品価値を高めたりしています。

他の産業でも、この大恐慌が企業へ効率性を求めたため、“合併による寄せ集めの企業”が産み出されました。具体的には、2つの地元の銀行が、より大きな相手と合併せざるを得なくなりました。「レーニア・パシフィック銀行」と「アンプクア銀行」、「ベンチャー銀行」と「ファースト・シティズンズ」です。

「ナーリーズ」が、食品加工工場の操業をこの地で終えたことにより、地域全体で160種類の仕事に影響が出ました。しかし、「ラスアメリカ」がこの工場を買収し、以前この地にあった企業である、有限会社「トライデント&ニチレイ」を再開しました。このすり身工場では、流通と加工の拠点として、約50名を雇用し、それは100名まで拡大すると思われます。

実際のところ、21世紀はじめの10年間、投資家に最も貢献したのは圧倒的に“昔からの経済”なのです。ピアース郡に設備を有し、通勤する社員のために地域に多くの用地を有するボーイング社は、462機の航空機を納品し、3,443機まで在庫を増加させました。さらに530機が追加注文中です。

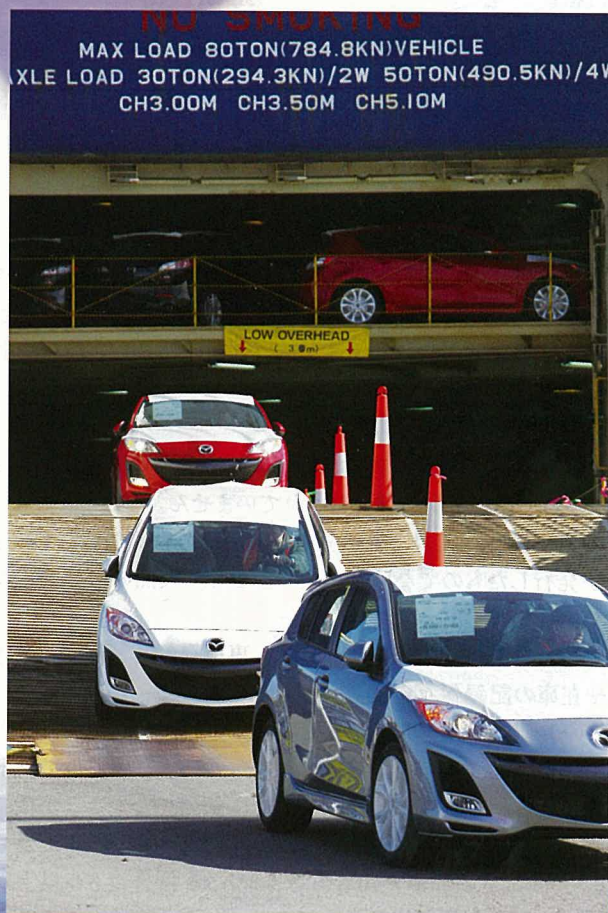
「タコマ・シュニツァー・スチール工場」のような世界的展望を共有している企業が、いわゆる“新しい経済”、魅力ある企業に打ち勝ちました。しかしながら、テクノロジー企業が、地域経済の主要な部分であり、将来の見通しにおいてもそれは変わることはないのです。

「ラッセル・インベストメント」は、発表していたシアトル市からタ

コマ市への再移転を完了しました。このことは、地域経済では正味ゼロの影響となりますが、タコマ市に対してはいい影響が期待されています。これまでのところ、移転が2010年後半であり、その他の経済が不振であったことから、はっきりとした影響についてお伝えすることは難しい状況です。

さらに前向きな情報として、「ザ・ルメイ・アメリカズ・カー・ミュージアム」が、165,000平方フィートの博物館建設に向け起工式を行いました。6,000万ドルの費用をかける計画で、工事は2011年9月15日に完成予定です。この博物館では、個人での車収量では世界最大の収集であるとギネスブックで証明されている、故ハロルドE.ルメイ氏の個人所有の車を展示する予定です。

そして、「チェンバーズ・ベイ」の誕生と批評家からの賞賛を忘れることはできません。これは、リンクス形式のゴルフコースで、2010年のU.S.アマチュア大会が開催され、2015年のU.S.オープンが開催予定なのです。



海外貿易ゾーン(No.86)に搬入されるマツダ車



# 八戸港の貿易概況報告(平成22年1月~12月)

〒039-1162 青森県八戸市豊洲3-9 八戸港貿易センター3階

日本貿易振興機構 (JETRO) 八戸情報デスク TEL:0178-72-1850 FAX:0178-72-1503

## <概況>

平成22年の八戸港の貿易概況は、世界同時不況で低迷した平成21年の実績から回復し、輸出額においては、フェロニッケル・一般機械等の好調により過去最高となった(前年比133.4%)。輸入額においては、ニッケル鉱・亜鉛鉱の好調により前年を上回った(前年比113.9%)。貿易額のうちコンテナ貨物通関額は、輸出額の好調により770億5200万円(前年比141.6%)、またコンテナ貨物通関本数は、輸出入合わせて21,429TEU(前年比110.3%)となった。

## ■平成22年1月~12月の貿易額(単位:千円)

※資料：八戸税関支署発表の貿易統計  
(八戸港・むつ小川原港・久慈港)から抜粋

### 輸 出

品名	単位	今年累計		対前年比 累計%	
		数量	価格	数量	価格
船 舶	NO	13	34,714,409	108.3%	93.5%
フェロニッケル	MT	153,052	50,448,041	110.2%	159.7%
有機化学品	KG	1,684,640	640,093	136.8%	158.6%
紙製品	MT	18,235	1,275,059	1342.8%	1102.2%
一般機械			57,636,728		149.7%
鉄鋼製品	MT	336	59,334	130.6%	82.0%
飼料	MT	568	41,950	94.0%	88.3%
魚介類	MT	16,175	2,115,357	114.4%	124.3%
鉄鋼くず	KG	33,380,150	1,179,451	88.7%	105.7%
電気機器			295,426		102.3%
その他	—		3,291,371		119.6%
合計	—		151,697,219		133.4%

### ●コンテナ貨物通関額 ( )内は対前年比

輸 出	630億70百万円(161.9%)
輸 入	139億82百万円( 90.5%)
合 計	770億52百万円(141.6%)

### ●コンテナ貨物通関本数 ( )内は対前年比

輸 出	11,531TEU(125.0%)
輸 入	9,898TEU( 97.1%)
合 計	21,429TEU(110.3%)

### 輸 入

品名	単位	今年累計		対前年比 累計%	
		数量	価格	数量	価格
ウッドチップ	MT	1,302,434	15,029,622	114.9%	101.7%
とうもろこし	MT	900,549	19,319,876	101.7%	100.9%
ニッケル鉱	MT	2,720,556	18,508,421	138.8%	173.2%
木 材	CM	21,275	551,280	90.0%	89.2%
亜鉛鉱	MT	140,780	7,983,578	114.3%	152.1%
亜鉛さい	MT	15,888	883,332	176.3%	327.1%
大豆粕	MT	288,814	11,352,357	116.4%	106.6%
魚介類	MT	16,201	3,708,238	80.2%	73.3%
飼料	MT	81,837	1,768,623	110.9%	73.6%
石 炭	MT	665,098	6,802,824	113.3%	111.9%
こうりゃん	MT	228,389	4,793,373	92.6%	99.4%
ウッドパルプ	MT			全減	全減
カオリン	MT	54,079	1,151,425	84.0%	81.1%
肥料	MT	16,419	582,942	240.0%	192.0%
コークス等	MT	78,037	2,581,898	86.0%	86.5%
鉛 鉱	MT	50,826	6,808,775	83.8%	94.0%
金属製品	MT	5,799	1,402,374	139.4%	103.0%
その他穀物	MT	42,339	851,436	298.2%	312.4%
糖 蜜	MT	5,584	109,975	107.0%	117.1%
一般機械			528,769		41.3%
その他	—		13,716,272		149.3%
合計	—		118,435,39		113.9%

## 水産物の輸入管理強化(香港)

日本貿易振興機構 (JETRO)  
青森貿易情報センター  
TEL 017-734-2575  
FAX 017-773-2877  
〒030-0802 青森市本町1-2-15 青森本町第一生命ビル5階

香港では、日本の国会に相当する立法会で「食品安全条例案」が審議されています。内容は、輸入業者、卸業者の登録の義務化及びトレーサビリティシステムの確保などです。これまでほとんど規制のなかった香港ですが、政府によると、制度をワールドスタンダードに合わせ、消費者の安全を確保するための法制化だといいます。

### <義務付けられる衛生証明書>

この条例案で、水産物の輸入の際に、衛生証明書の提出を義務付ける制度改正が検討されています。現行では、衛生証明書の提出は推奨されていますが義務化はされていません。

条例案では、加工品を除く全ての水産物の輸入時に、衛生証明書の提出を求められています。この衛生証明書は輸出国の政府関連機関が発行したものでなければなりません。天然の水産物の場合は、衛生証明書の発行が困難な場合、自己申告の提出が検討されています。

また輸入業者は、食物環境衛生署へ事前登録し、積荷が香港に到着する前に輸入地と保管場所を報告しなければなりません。加えて、輸入や在庫の記録保存が義務付けられます。

ふぐのように、危険度が高いと考えられる水産物は、更に厳しい管理が実施されるか、または輸入を禁止することも検討しています。

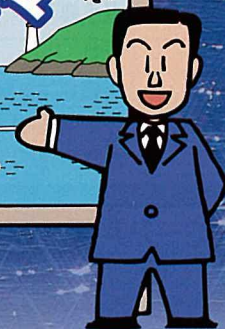
この条例案について地元紙のサウスチャイナモーニングポストは、2011年1月9日付で大きく報道しています。

同紙によると「香港は輸出入手続きが煩雑でないことから、日本にとって3年連続して水産物の最大の輸出先となった。日本からの水産物の輸出量の約半分が香港向けであり、2010年1月から11月までの日本の香港向け輸出は前年同期比で58%増加している。この11ヶ月間で、乾燥海産物も約3トン、26億香港ドル以上が香港に輸入された。先日、香港の企業が、東京の築地市場で342kgのクロマグロを過去最高値で水曜日に落札した。このマグロは金曜日には香港のレストランに並んだが、新条例が成立すれば、日本から香港への輸出状況は変わる可能性がある。」と報じました。  
(Food&Agriculture2825号より)



# 八戸港の物流を支える人々

～国土交通省東北地方整備局  
八戸港湾・空港整備事務所～



今回は、八戸港の整備を実施する国土交通省東北地方整備局八戸港湾・空港整備事務所についてご紹介します。

当事務所は八戸港開港翌年の昭和15年に「内務省仙台土木出張所八戸港修築事務所」として設置されたのが始まりで、戦時下の燕島との埋立事業、戦後直後の全国初の沈船防波堤事業などを直営工事で施工し、新産業都市指定後、急速に拡大・発展する八戸港を、第一線防波堤の整備、基幹航路の整備、大水深岸壁の整備などで支え、安全安心の向上に努めて参りました。また昭和53年に「むつ小川原港」の整備が加わり、昭和57年に「三沢飛行場」の整備も着手するなど、港湾・空港の基盤整備により地域の産業経済・物流活動を支える役割を担いながら、国土交通省への再編・名称変更を経て現在に至り、昨年に事務所設置70周年を迎えたところです。

八戸港はかつて漁業中心の港でしたが、市制施行と同時に商港に編入され、国際・国内海上輸送網の拠点である重要港湾に昭和26年に指定され、新産業都市指定を契機に工業港としての整備が飛躍的に進められました。現在では臨海部に電力、造船、製紙、非鉄金属・精錬、製鋼、穀物飼料、セメント、水産業等たくさんの企業が立地し、北海道～本州の物流の大動脈である八戸・苫小牧フェリー航路があり、近くの工業団地においても立地企業が港湾を活用した経済活動を行う等、北東北で随一の一大産業拠点が形成されるに至っています。

また平成6年に東北で最初の外貿定期コンテナ航路が開設され、青森県内で唯一コンテナを扱う港湾であり、平成22年のコンテナ取扱量は約45,430TEUと、平成16年から過去最高取扱量を7年連続更新中です。



八戸港全景(平成22年5月撮影)

最近では、JX日鉱日石エネルギー(株)がポートアイランドに八戸LNGターミナル建設に着手し、東北電力八戸火力発電所がメガソーラー建設を開始するなど、エネルギー拠点として注目を集めているほか、穀物飼料が大変順調に伸びているのも特徴です。

当事務所は、港湾(空港)を活用した経済活動を陰ながら支える役割を果たしています。外洋に面した港湾の宿命である高波浪から安全に避泊・荷役できるように「防波堤整備」、船舶が満載喫水で入港できるように「航路浚渫」、馬淵川から大量の流下土砂があっても対応できるよう「新たな処分場の確保」という地道な基盤整備事業であり、港湾管理者の青森県や地元八戸市、そして港湾関係者、ユーザーや漁協関係者のみなさんのご支援なしには推進できないものです。

幸い、昨年8月に国の施策で「選択と集中」が図られ全国に103ある重要港湾のうち新規事業着手の対象とする「重点港湾」が43港に絞られましたが、八戸港がその一つに選定されたことは地域にとっても喜びです。

なお当事務所では港湾工事等の実施のほか、所有船舶「ほくと」での港内見学会や、学生や一般向けの出前講座などを通して、港湾の役割や、港と生活の関わりなどについて理解を深めていただいております。その他にも「海とみなとの相談窓口」を設けお気軽に相談・ご質問いただけます。



防波堤の内側に避難する船舶



鉱石船の荷役

お問い合わせ先  
 国土交通省東北地方整備局 八戸港湾・空港整備事務所  
 八戸市沼館4丁目3-19  
 TEL:0178-22-9391 FAX:0178-45-7239  
 HPアドレス: <http://www.pa.thr.mlit.go.jp/hachinohe/>



コンテナ航路		船社名	集荷代理店	寄港間隔	主な寄港地
外航	東南アジア航路	PIL	八戸通運(株)	週1便(火)	《寄港地》台湾(高雄、基隆、台中)、中国(上海)、韓国(釜山) 《接続地》東南アジア全域、中国、豪州、欧州、南米、アフリカ他
	中国・韓国航路	南星海運(株)	八戸港湾運送(株)	週2便(火・水)	《寄港地》韓国(釜山、光陽、蔚山)、中国(天津新港、大連、青島、上海、寧波) 《接続地》中国、ベトナム、欧州、北米、南米、豪州他
	北米航路	WSL	八戸港湾運送(株)	月1便(水)	《寄港地》アメリカ(シアトル)、カナダ(バンクーバー)、釜山
内航	内航フィーダー航路	(株)横浜コンテナライン	八戸通運(株)	週1便(火or水)	《寄港地》横浜 《接続地》世界各港
		井本商運(株)	八戸港湾運送(株)	週2便(月・金)	《寄港地》東京・横浜、神戸、四日市・名古屋 《接続地》世界各港
		鈴与海運(株)	八戸港湾運送(株)	隔週(土)	《寄港地》横浜、清水、名古屋 《接続地》世界各港

PIL : Pacific International Lines(Singapore) WSL : Westwood Shipping Lines(U.S.A)

主な寄港地～八戸港の所要日数(最短)

寄港地	所要日数(日)	
	輸出	輸入
釜山(韓国)	2	4
光陽(韓国)	4	5
蔚山(韓国)	5	8
基隆(台湾)	7	13
台中(台湾)	8	12
高雄(台湾)	9	11
香港(中国)	11	19
大連(中国)	6	8
青島(中国)	7	7
上海(中国)	7	7
天津新港(中国)	8	9
寧波(中国)	6	8
蛇口(中国)	11	13
シンガポール	20	25
ジャカルタ(インドネシア)	29	25
バンコク(タイ)	22	23
レムチャパン(タイ)	23	15
マニラ(フィリピン)	35	39
ホーチミン(ベトナム)	23	20
ハイフォン(ベトナム)	10	12
ロングビーチ(米国西岸)	16	18
シアトル(米国西岸)	21	13
チャールストン(米国東岸)	30	23
ニューヨーク(米国東岸)	29	22
バンクーバー(カナダ)	23	13
ブリスベン(オーストラリア)	31	21
オークランド(ニュージーランド)	39	28
サウサンプトン(イギリス)	29	35
ルアーブル(フランス)	30	35
ブレーメルハーフェン(ドイツ)	32	35
ハンブルグ(ドイツ)	43	44
ロッテルダム(オランダ)	41	42

東北地方太平洋沖地震お見舞い  
御礼申し上げます

この度3月11日、八戸港は太平洋沖を震源とする非常に強い地震である東北地方太平洋沖地震に見舞われました。

この震災に際し、多くの皆様方からの心温まるお見舞い、ご支援をいただき大変ありがとうございました。一同大変勇気付けられております。

この地震による津波で、コンテナの流出、建物や倉庫、機材等の損壊など、八戸港は甚大な被害を受けました。

今現在、八戸港関係者一同、全力で復旧に取り組んでいるところでございます。

今は、一部荷主様等にご迷惑をおかけすることもあるかとおもいますが、一日でも早い復旧に向けて取り組み、必ず今まで以上の八戸港「新生八戸港」を目指し一同努力してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

最後に、八戸港はもとより皆様のご無事、ご幸運をお祈り申し上げます。

八戸港関係者一同

海上コンテナ輸送の御用命は「八戸港国際物流拠点化推進協議会」加盟の各社へ

八戸通運株式会社(海運営業所)	TEL:0178-29-0202	FAX:0178-20-3281
八戸港湾運送株式会社	TEL:0178-29-3177	FAX:0178-29-3119
新丸港運送株式会社	TEL:0178-20-2321	FAX:0178-20-2353
八戸運輸倉庫株式会社	TEL:0178-28-2401	FAX:0178-28-6976
三八五流通株式会社(八戸区域事業所)	TEL:0178-52-7755	FAX:0178-52-7751
日本通運株式会社八戸支店	TEL:0178-20-3040	FAX:0178-20-3154
ナラサキスタックス株式会社八戸支店	TEL:0178-20-1651	FAX:0178-20-2444
株式会社青森銀行・株式会社みちのく銀行・青い森信用金庫		
青森県・八戸市・八戸商工会議所・八戸港振興協会		

※この情報誌について、発行直前に震災があったため、内容は被災する前に準備したものととなっておりますのでご了承ください。



八戸港国際物流拠点化推進協議会 Hachinohe Port Promotion Commission

〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1-1 八戸市商工労働部産業振興課内

TEL:0178-43-9244 FAX:0178-43-2256 e-mail: [hppc@hi-net.ne.jp](mailto:hppc@hi-net.ne.jp) [www.hi-net.ne.jp/hppc](http://www.hi-net.ne.jp/hppc)

(株)八戸港貿易センター Hachinohe Port Trade Center Co., Ltd.

〒039-1162 青森県八戸市豊洲3-9 八戸港貿易センター3階

TEL:0178-72-1505 FAX:0178-72-1503 e-mail: [mail@hptc.co.jp](mailto:mail@hptc.co.jp) [www.hptc.co.jp](http://www.hptc.co.jp)